

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第86号

代表退任のご挨拶



松下 恵造

2年間の任期が終わり、5月17日の総会を最終として、ダイヤかながわ交流会代表を退任いたします。この間、ご支援ご協力をいただきました会員の皆様、運営委員の皆様には深く感謝を申し上げます。

後任として森 英敏さんが快く代表を引き受けていただき、大変有難く、心強く思っています。森 英敏さんは私と同じ1946年生まれで、活力と前向きな取り組みの持ち主であります。会員の皆様には新代表に対しましても倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

任期前半の昨年1月から新型コロナの感染が始まり、交流会の2つの分科会と7つの同好会活動の殆どを感染拡大防止のため中止としました。そんな中で三密とならない活動として、歩こう会が2回（野島公園と伊藤博文金沢別邸散策、川崎市立日本民家園散策）とゴルフ同好会が2回（厚木国際カントリー倶楽部）開催され、各幹事の方々のご尽力に感謝申し上げます。また、観劇鑑賞会では大竹幹事から巣ごもり状態の全会員にテレビ番組案内を続けていただいております。

コロナ禍での総会、定例会の開催について、昨年3月の定例会は中止、5月の総会は書面審議とし、9月以降の定例会は何とかZoomによるテレビ会議システムで開催できるようになりました。これらの定例会の中で招待講演をお願いしたダイヤ高齢社会研究財団の森義博次長、DAA運営委員長（ダイヤさわやかネット）の野本浩一様、元アゼルバイジャン兼グルジア大使の藤原稔由様、そして会員スピーチをお願いした金子会員、船木会員、羽佐田会員、佐藤邦彦会員には、我々のホームグラウンドであるかながわ県民センターでの講演を行っていただけて誠に申し訳なく思っております。また、終了後の懇親会も開催出来ず、プラスアルファのお話を拝聴する機会が持たなくて、大変残念に思っております。

任期前半のDAA運営委員会では主要な検討事項が2件あり、1件目は「DAA会則改正」の詰めでした。ダイヤ財団・樋渡前常務理事の時に、ダイヤ財団の公益法人化に伴いDAAと財団の関係を基本的に見直すことから始まり、約4年に亘って検討を続けられた結果、2019年10月7日付けで「DAA会則」の改正とDAAとダイヤ財団の関係に関する「覚書」が締結されました。この改正に伴って「ダイヤかながわ交流会会則」の一部改訂も必要と判断したため、5月17日の

総会の第6号議案としてご承認をお願いする次第です。

2件目は「2020年3月の全体交流会の計画」でした。交流会プログラムの目玉企画として、2020オリンピックイヤーにちなんで、1) 映画「東京オリンピック1964」(市川崑監督作品)より「開会式」「女子バレー」「体操」「重量挙げ」等をダイジェストして上映、2) 前回1964大会での経験談スピーチ(当会の羽佐田会員、佐藤邦彦会員ほか)、等々のオリンピック関連プログラムを準備しましたが、コロナの第一波感染拡大が危惧されたため、昨年2月のDAA臨時運営委員会で直前の開催中止を決めました。また「2021年3月の全体交流会」も昨年8月のDAA運営委員会で早めに中止を決め、残念ながら2年連続で開催できませんでした。

今年に入って、DAA運営委員会での主な課題は下記の2件でした。

1) DAAのグループ間交流に関して、全体交流会での交流以外に、①グループ間での各種交流、②他グループのニュースを配信する、③外部講師として講演をお願いする、などが提案されています。今後、それぞれ具体的な検討を進める必要があるでしょう。

2) 新規会員集めに関して、DAAのどのグループも会員数は減少傾向にあり、対策を立てる必要があります。多くのグループからは「これまで出身会社経由でPRしたが反応が無い。一本釣りしかないだろう。」との意見が出ました。また、ダイヤさわやかネットと囲碁会のように地域密着型でないグループでは、より人を集めにくいとのこと。

当会の会員数の動向を見ますと、2013年4月時点での会員数は76名でしたが、2021年4月現在は58名となっています。この間に社会的な問題である少子高齢化の影響で定年延長が年々進んで、新規会員の獲得が大変難しくなっています。各会員の皆様には会員増強への個別の勧誘活動(一本釣り)を是非活発にお願いいたします。

最後に、ワクチン接種が何とか順調に進んでコロナ感染が年内には終息に向い、当交流会の活動が正常に展開できるようになって、楽しく充実した交流の場が再び提供されることを切に願っております。

<かながわ子ども教室> (小島啓三郎)

令和2年4月から令和3年3月までの1年間の活動について、報告いたします。

この1年、新型コロナウイルス蔓延に悩まされました。感染防止のための教室開催条件を6月に定め、また、Zoomを利用したリモート方式の教室も開発いたしました。その結果、9月から活動を再開することができ、リモート2回を含め、年末までに15回の教室を実施しました。しかし、1月から、また緊急事態宣言となり、3月に7回の教室が実施できたものの年度計で22回(うち4回がリモート)にとどまりました。前年度は3月に活動ができなかったものの131回でしたので、大幅な減少でした(下表参照)。

しかし、この間にリモートで実施しうる教室を7教室とし、少人数のサポーターでも成り立つ教室も増やしてきており、まだ続くコロナ禍に耐えうるようになってきていると思われます。

	令和元年度	令和2年度
科学教室	110回	20回
暮らしの教室	17回	2回
フェスタ	4回	0回
会員参加者	912人	87人
児童参加者	4,576人	468人
教室	(3,369人)	(468人)
フェスタ	(1,207人)	(0人)
保護者等参加者	1,271人	85人

また、昨年度に開発された「たのしい実験室」及びリニューアルされた「子どもの化学」が実施され、好評でした。さらに、新たに「ふしぎな見えかた」も3月に実施され、好評でした。また、「プログラミング」教室の準備も進み、新年度は科学20教室、暮らし4教室の合計24教室で臨むこととなります。

会員としては創設以来のメンバーであった望月さんが退会されましたが、野本さんが加わり、42名に変わりはありません。